

郷土資料館だより

Vol.33 No.2
2010.12.1



富士自慢



- 会場 郷土資料館1階展示室 ●会期 平成22年12月19日(日)~平成23年2月27日(日)
- 主催 富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会

通算で14回を迎えた今回の共同企画展は日本一の名峰「富士山」をテーマに開催します。富士山南東麓に位置する富士、沼津、三島の3市にとっては馴染みのあるテーマであり、それぞれのまちから富士山がよく見えますが、三島以外から見える富士山の姿というのは案外知られていません。今回は、それぞれのまちから見える富士の姿や富士山をテーマにした作品を3館が収蔵する資料を中心に「自慢」し合います。この機会にぜひ市民の皆様にご覧頂きたいと思ひます。

◆浮世絵 東海道五十三次 三島

初代歌川広重の有名な東海道五十三次シリーズのひとつです。富士山の描かれているのは有田屋版と蔦屋版という、いずれも小型版で、三島宿の遠景に象徴的な富士山を見ることができます。東海道五十三次シリーズでは杵をはみ出して描かれた富士山(原宿)や、左富士(吉原宿)などが有名ですが、三島では富士山より三嶋大社の鳥居の方がテーマとして多く描かれています。



◆俳画「富士山」(三島市立佐野小学校蔵)

作者・滝の本連水(1832~1898)は江戸後期から明治にかけて活躍した伊豆佐野の俳人です。代表句集『雲霧集』には富士百景ともいべき富士を詠んだ秀句百句が収められています。本作品「かへし来てしたしむ雪やふじの山」は佐野小学校校歌の歌詞の一部となっています。

◆三四呂人形「JAPAN」(寄託)

三四呂人形は三島出身の人形作家・野口三四郎(1901~1937)が制作した張子人形です。この作品は背景に富士山が描かれており、傘を差した和服の女性と侍姿の男性が立っています。外国から来た観光客向けに当時の日本のイメージであった「フジヤマ」「ゲイシャ(芸者)」「サムライ」などを意識して制作されたものではないかと考えられます。



◆朝焼けの富士

三島出身の日本画家・下田舜堂(1899~1989)により描かれた作品です。箱根西坂入口付近から富士山に向かって描かれたもので、三島市内が朝霧に包まれている様子が分かります。また、昭和20~30年代初め頃までの民家の姿や松並木と付近の様子等も伝えてい



ます。画面中央の富士山は、宝永噴火口が正面に見え、三島からの富士山を写実的に描いた貴重な作品です。

企画展「収蔵品展 前期 三島宿と箱根西坂」報告

- 開催期間 平成22年7月3日(土)～平成22年8月29日(日)
- 入館者数 6,807人 ●資料点数 117点

今回の企画展は、来年の開館40周年を目前に、現在までの収蔵品を公開することを目的として開催したものです。前期が「三島宿と箱根西坂」、後期が「楽寿園」と題し、収蔵品を中心に構成しました。

前期の「三島宿と箱根西坂」ですが、三島宿や箱根西坂については、当館のメインテーマであるので過去にも切り口を替えながら何度か開催してきましたが、今回は接待茶屋関係資料が鈴木征子氏より寄贈されましたので、山中城も含めた箱根西坂を改めて紹介しました。

また夏休み期間ということもあり、来館する子どもたちにも江戸時代の三島宿を知ってもらえればということで、絵図などを中心に展示を構成しました。

当館には樋口・世古本陣家文書が数多く収蔵されておりますので、こうした機会を通じて江戸時代の三島を紹介していければと思っています。



郷土教室 機織りを体験しよう 開催報告

- 日時 8月6日(金) ●講師 杉山 洋子氏 (ギャラリーあさひ)
- 参加者 小学4～6年生10人 ●会場 郷土資料館2階

2階常設展示室に展示している機織り機を使って、古い布や着物を裂いて織る「裂き織り」という昔のリサイクルを体験しました。先生が作った手提げカバンなどの見本や綿布の原料になる綿の木を見てもらった後、ひとり20分程度で先生の指導を受けながら15cmほどの幅の布を織り上げることができました。綿の木を見たことがある参加者が多かったのには驚きましたが、機織りの方はほとんどが初めてということでした。

はじめは戸惑いながらだった参加者も先生の親しみやすく丁寧な教えでカタン、コットンと次第にリズムよく織れるようになっていき、最後には「もっとやってみたい」という声も聞かれました。アンケートにも「きれいなものができてびっくりした」「手と足をいっぺんに使うから慣れるのに時間がかかったけど楽しかった」といった声があり内容は好評でした。

また、やってみたいことに「綿の木を育ててみたい」「糸を紡ぐところからやってみたい」といった回答があり、参加者それぞれの中で関心を広げていってもらえたようでした。



資料館2階展示室にて

収藏品デジタルデータベース化事業（緊急雇用創出事業）

- 事業期間 平成21年度～23年度（3年間）
- 主な内容 所蔵資料全体のデータベース化、主要な文書資料のデジタル化、主要な写真資料のデータベース化と一部を除くデジタル化



平成21年度より3年計画で国の雇用対策事業の一環としての交付金を受け収蔵資料のデジタルデータベース化を進めています。

これまでに樋口家文書、三島問屋場文書、花島家文書など近世・近代の古文書5,000点余りをデータベース化しました。今年度は約2,000点を追加する予定です。これらの文書資料には郷土史の研究や勉強には欠かせない貴重なものがたくさん含まれています。館には未整理の資料も少なからずありますがなるべく早く目録などの形にして公開し、多くの方の調査・研究に役立てられるようにしていきます。

また、写真資料には寄贈された古写真や絵葉書、館で実施してきた企画展や事業、調査の記録が含まれています。多くの方の興味を引きそうな戦前の市内を写した写真などもありますので、主な写真をホームページに掲載するなど、多くの市民の方に見ていただけるような公開の方法を検討していきます。

この事業は(有)TDドキュメント・サービスへの委託事業として実施しており、現在も6名の方が郷土資料館2階で事業を進めてくださっています。毎日非常に熱心に取り組んでいただいていますので、館としてもその成果を多くの方に見えるような形で提供していきたいと考えています。

中学生職場体験「ゆめワーク三島」報告

三島地区の中学生職場体験事業「ゆめワーク三島」として南中学校4名、中郷中学校1名、錦田中学校2名、計7名の2年生が来館しました。

南中の4名には3階の展示替えを行っていただきました。パネル中心の展示ですが、配置や見せ方など、分かりやすく工夫していただきました。

中郷中の1名には展示用パネル作りと玄関ホールの展示を行っていただきました。慣れないパネル作成に最初は戸惑ったようですが、慣れてくるとスムーズに作業できるようになりました。

錦田中の2名には刊行物整理作業と西小学校郷土教室の展示替えを補助していただきました。西小学校の資料や多くの刊行物も一生懸命かつ丁寧に取り扱いながら運んでくれました。

これらは普段の学校生活では体験できないことですが、ここで経験したことを将来的に何かの形で役立ててもらえればと館員一同願っています。



展示用パネル作り



資料館3階展示室の展示替作業



西小学校郷土教室の展示替作業

郷土資料館改築事業

郷土資料館では、平成24年秋の開館を目指して新たな郷土資料館の建設事業に取り組んでいます。前号に続き、その進捗状況についてお知らせします。

前号では、移転改築となった経緯と新館の施設概要、基本理念についてご紹介しました。その後、基本構想案は庁内検討特別部会、郷土資料館運営協議会、社会教育委員会、教育委員会定例会等で審議され、8月20日に策定されました。現在は基本構想に基づき、基本設計を進めています。設計業務は、建築設計を企業組合 針谷建築事務所に、展示設計を株式会社 トータルメディア開発研究所にそれぞれ委託しました。

訪れた皆様に寛いでいただけて、また、楽しく三島のまちの新たな魅力をお伝えできる施設となるよう、文化振興課（郷土資料館）及び建築住宅課の職員、並びに委託業者による全体打合せを週に一度のペースで重ねています。

去る9月15日には、郷土資料館及び建築住宅課職員、委託業者と揃って、東京にある練馬区立石神井公園ふるさと文化館を視察してきました。以下、その視察報告です。

視察報告

訪問先 練馬区立石神井公園ふるさと文化館

石神井公園ふるさと文化館は、今年3月28日にオープンしたばかりの新しい博物館施設で、開館からわずか5ヶ月で13万人を超える人々が来館している活気のある施設です。施設全体が博物館施設としてはとても明るく、公園内にある施設のため窓の外には緑も多くて心地よい空間となっていました。

開館後の館の運営を考えて、建設事業の当初からボランティアの組織作りを進めていたようで、現在は90人を超える会員がいて、平日でも5～6人の方たちが交代で、来館者のために館の活動のサポートにあたってくださっているそうです。わがまち練馬情報コーナーや常設展示室には、来館者や区民が体験・参加で

きる要素が多く採り入れられていました。また、子どもたちが楽しみながら郷土について学ぶことができるよう、展示内容や展示手法、什器に至るまでいろいろな工夫が施されていました。

石神井公園ふるさと文化館を視察させていただいて、新しい郷土資料館での活動について、より具体的なイメージを描くことができました。新館でどのような活動をするのか、どのようなサービスを提供していくのかを深く考える良い機会となりました。

このイメージを膨らませて、三島のまちにふさわしい博物館施設を造るため、この改築事業に力を注いでいきたいと思っています。



エントランス



常設展示室の展示風景

夏目漱石と三島～修善寺の大患100年から～



夏目漱石

今年文豪・夏目漱石が修善寺を訪れてから100年を迎えました。この日本を代表する文豪が伊豆を訪れたことは案外知られていませんが、明治43（1910）年8月6日、43歳の時に湯治で修善寺を訪れ、10月11日までの約2ヶ月間滞在しました。実はこの間に漱石の生命を揺るがす出来事が起こります。いわゆる「修善寺の大患」ですが、修善寺到着後の8月24日、持病である胃潰瘍が悪化し、吐血を繰り返し、生死の境をさまようこととなります。幸い周囲の手厚い看病により生命の危機は脱するのですが、漱石の日記や『思い出す事など』にはこの時の緊迫した様子が克明に記され、また『行人』ではこの修善寺の出来事を作品で表現しています。

話は戻りますが、漱石は修善寺への行き帰りは伊豆鉄道（現・伊豆箱根鉄道駿豆線）を利用していたので、三島駅で東海道本線との乗り換えがあったという記述が日記などに登場します。

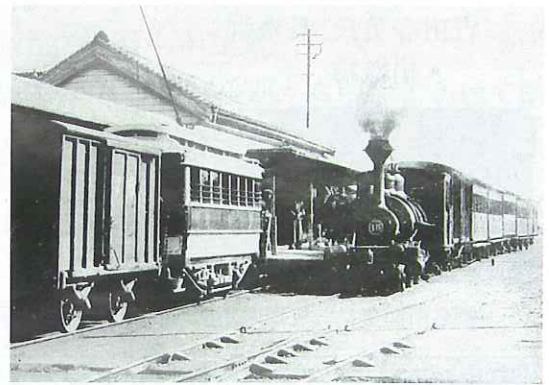
十一時の汽車で修善寺に向ふ。（中略）三島で四十分待つ。大仁へ着いたら車が一挺もない。漸く三台を駆り出す。荷物は荷車で運ぶ。途中雨来る。車夫の脛丈見ゆ。車に提灯の光映る（以下略）

（『漱石日記』明治43年8月6日より抜粋）

我々は沼津で二日ほど暮しました。ついでに興津まで行こうかと相談した時、兄さんは厭だと云いました。（中略）我々はついに三島まで引き返しました。そこで大仁行の汽車に乗り換えて、とうとう修善寺へ行きました。兄さんには始めからこの温泉が大変気に入っていたようです。

（『行人』より）

しかしながら、ここでいう三島駅は現在のものではなく旧三島駅で、現在の御殿場線下土狩駅を指します。当時の東海道本線は御殿場を經由して沼津に至るものでした。また、駿豆線も修善寺まで繋がっていた訳ではなく、旧三島駅が起点で大仁駅が終点でした（大正13年に修善寺まで開通）。因みに往路は日記のとおり、三島で40分待ってから午後6時45分発大仁着7時42分という列車に乗ったようです。まだ蒸気機関車の時代ですから、大仁まで1時間程かかっています（現在は30分程度）。そこから先は人力車で修善寺温泉の菊屋旅館に向っています。



駿豆線を走る蒸気機関車（現・三島田町駅）



漱石が滞在した旧菊屋本館「大患の間」
修善寺・虹の郷「夏目漱石記念館」に移築されている。

どうやら漱石が三島に立ち寄った様子はありませんが、きっと列車の車窓から明治期の三島を目にしていたことでしょう。明治後期の三島は、まだ市制施行前で三島町、北上村、錦田村、中郷村に分かれており、東海道本線開通による箱根越えの旅客減少により、元気をなくしていた時期です。果たして文豪漱石に三島の町はどのように映ったのでしょうか。残念ながら三島を語る記述はこれ以上見当たりませんが、日本を代表する文豪が三島を目にした時にどう感じたか、想像してみるのも面白いかもしれません。

博物館実習報告

今年度の博物館実習は、9月1日から10月28日までの間に行われました。実習生として参加したのは日本大学法学部4年の長谷川あゆみさんと清泉女子大学文学部4年の小林愛実さんの2名です。長谷川さんは収蔵品展「楽寿園」の展示準備を補助してもらい、また小林さんは3市博物館共同企画展「わがまちからの富士山」(富士会場：富士市立博物館)の展示準備に参加ということで、それぞれ実際の展示の方法を学びました。

実際の資料を取り扱うといった、普段とは異なる緊張感の中で、二人ともそれぞれの展示作業に精励されていました。



長谷川さん(左)と小林さん(右)

寄贈資料紹介

平成22年8月から11月にかけて次の方々よりご寄贈の協力をいただきました。ありがとうございました。

- 三島市立德倉小学校 三島市
- ・ 図書、印刷資料 32点
 - ・ 紙芝居用の木枠 1点
 - ・ 九九練習機 1点
- 神田茂氏旧蔵 東京都
- ・ 三嶋暦 49冊
- 吉田春美氏 長泉町
- ・ 絹織物 1点

- 鈴木征子氏 三島市
- ・ 和時計 1点
 - ・ 接待茶屋写真 額入り 1点
- 間宮佳千氏 三島市
- ・ 『都名所図会』(6冊) 1揃
 - ・ 『江戸名所図会』(18冊) 1揃
- 田中之博氏 三島市
- ・ 『花籠図』草野龍雲筆 1幅



『都名所図会』 『江戸名所図会』



三嶋暦

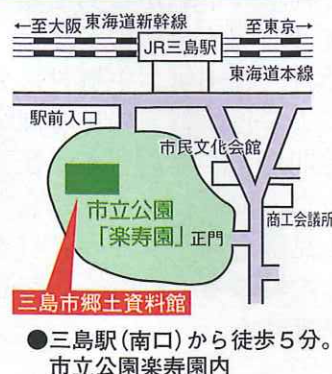


和時計

編集後記 暑い夏が過ぎたと思ったら、もうそこまで冬の足音が聞こえる今日この頃。お猿さんの効果で秋のイベント菊祭りも盛り上がり、郷土資料館にも大勢来館頂きました。(Y・T)

利用案内

- **休館日**
毎週月曜日
(祝日の祭は翌日)
12月27日～1月2日
- **開館時間**
午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)
- **入館無料**
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



郷土資料館だより Vol.33 No.2 (第98号)

発行日 平成22年(2010)12月1日
(年3回)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/
発行 三島市教育委員会